

1. プロジェクト名称	島根県に多い膵臓癌の撲滅をめざして					
	(英訳名)	Control of pancreatic cancer with high incidence in Shimane				
2. プロジェクトリーダー	所属	医学部生命科学講座	職名	教授	氏名	本間良夫
	現在の専門	がん細胞生物学			学位	理学博士
3. プロジェクトの概要 ①本研究プロジェクトで何をどこまで明らかにするか、②当該分野の国内外の研究と比較して本プロジェクトのユニーク性・重要性・先見性、③島根大学で行う意義・大学の発展にとって期待される効果、について簡潔に記入してください。 <p>島根県では、他の地域に比べ膵臓癌に罹る患者が多いという統計が出ているが詳細な検討は未だなされていない。1972年から1982年までは全国平均レベルあったが、1980年以降増加傾向にあり1999年までの統計資料によると、特に女性においては、膵臓癌による死亡率が1997-1999年の3年間は全国一位を続けている。これらの結果は、1999年以降の詳細な調査を速やかに行う必要があることを示している。疫学的に詳細に調べ、島根県における膵臓癌の実態を正確に捉え、原因を考察し膵臓癌の早期発見・治療法の改善につながる手段を考案することが島根大学として取り組むべき重要課題と考えている。</p> <p>①島根県内における最近の膵臓癌に関する詳細な疫学的調査を行う。島根県に多い膵臓癌の特徴を、臨床病理学的立場からも明らかにする。また細胞レベルでも検討し、新しい治療法の開発の糸口を探る。</p> <p>②膵臓癌は難治性癌の代表と位置づけられているように、膵臓癌に関する研究は、国内外とも進んでいない。従って先行もしていないが遅れも取ってはいない。取り残されている難しい研究課題ではあるが、島根県地方においては特に取り組まなければならない重要課題であると考えている。</p> <p>③膵臓癌は、1)島根地方に特徴的に多い疾患であること、2)難治性のがんであり診断法治療法とも大いに改善する必要があること、3)がん疫学の専門家、膵臓癌治療の専門家、がん化学療法の専門家、がん細胞の専門家などの人材が揃っており、効果的なプロジェクトチームを大学内で作り、研究を推進していける環境は整っている。このプロジェクトが成果をあげれば、大学の発展に大きく寄与できる。</p>						
4. 本学の中期目標・計画, 大学憲章, アクションプランとの関係 <p>「がん」は島根県においても死因の第一位である。その中でもっとも難治性の膵臓癌がこの地方において多いと言う事実は、この克服に向けて集中的に研究を推進することが、「人とともに地域とともに」または大学憲章(3. 地域問題の解決に向けた社会貢献活動)に合致すると確信している。</p>						
5. 各年度の計画の概要 年度ごとに何をどこまで明らかにするのかを簡潔に書いてください。 <p>H20年度</p> <ul style="list-style-type: none"> 最新の島根県内の膵臓癌の罹患率・死亡率のデータを集め、疫学的解析を開始する。 過去10年間に来院した患者の臨床病理学的データを整理し、解析する。 膵臓癌細胞の培養を行い、ほかの腫瘍細胞との比較から、新しい治療戦略のための分子標的を探す。 <p>H21年度</p> <ul style="list-style-type: none"> 疫学的解析から、島根県における膵臓癌の特徴をこの2年間で明らかにする。 臨床病理学的立場から、島根の膵臓癌の特徴をこの2年間で明らかにする。 上記の成果と明らかにした膵臓癌細胞学的特性に基づき、膵臓癌の撲滅に向けた包括的な対策のための研究プロジェクト立ち上げの準備を完了する。 						
6. これまでの準備状況 関連する研究で公表された論文、成果などについて簡潔に記入してください。 <p>外科の田中教授は膵臓癌の外科的療法の専門家、膵臓癌に対して豊富な臨床実績を持っている。消化器内科も消化器外科とともに、来院患者の臨床病理学的データを多数蓄積している。公衆衛生学教室は、今まで膵臓癌に特化した形では疫学研究はしてきていないが、がん疫学の実績はあるので、速やかに膵臓癌に特化した疫学調査解析を開始可能な状態である。腫瘍生物学教室では、膵臓癌細胞をはじめとする、多くのがん細胞の培養を手掛けているし、あたらしいタイプの抗がん剤の開発で特許も取得している。この2年間の研究成果を基に、膵臓癌の予防・診断・治療のすべての範囲に研究を拡げ、包括的に膵臓癌の撲滅に向けて研究プロジェクトに発展させて推進していく予定である。附属病院の腫瘍センターをはじめ、医学部の基礎医学講座の参入によって、充実した研究プロジェクトに発展させる準備は整っている。膵臓癌に特化した研究論文は限られているが、「がん」に関する研究業績はこのプロジェクトのメンバー達は多数発表している。</p>						

7. プロジェクト推進担当者 平成20年度に限って記入してください。			計 名
ふりがな(ローマ字) 氏 名(年齢)	所属部局(専攻など)・職名	現在の専門・学位	役 割 分 担
(プロジェクトリーダー) Honma, Yoshio 本間 良夫	医学部生命科学講座 (腫瘍生物学) 教授	がん細胞生物学 理学博士	研究プロジェクトの全般と統括
Fujita, Yasuyuki 藤田 委由	環境保健医学講座 (公衆衛生学) 教授	がん疫学 医学博士	県内および全国的におよぶ膵臓癌の疫学的解析
Tanabe, Tsuyoshi 田邊 剛	環境保健医学講座 (公衆衛生学) 准教授	がん疫学 医学博士	県内および全国的におよぶ膵臓癌の疫学的解析
Tanaka, Tsuneo 田中 恒夫	外科学講座 教授	消化器外科 医学博士	院内患者の膵臓癌についての臨床病理学的解析
Moriyama, Ichiro 森山 一郎	腫瘍センター 助教	消化器内科 医学博士	院内患者の膵臓癌についての臨床病理学的解析
Akimoto, Miho 秋元 美穂	医学部生命科学講座 (腫瘍生物学) 助教	がん細胞生物学 博士(理学)	膵臓癌細胞の特性の解明
8. 研究経費概算 年度ごとに使用する予定の経費を記入してください。(単位:千円)			
・経費は本研究プロジェクトの遂行に必要な経費です。			
・研究計画の事項ごとに設備備品、旅費、消耗品費、人件費(アルバイト) などに分けて、できるだけ具体的に記入してください。			
平成 20 年度		平成 21 年度	
設備備品		設備備品	
旅費		旅費	
国内旅費(特に県内)	600	国内旅費(特に県内)	600
消耗品費		消耗品費	
生化学試薬	1500	生化学試薬	1200
事務用品	150	事務用品	150
人件費(アルバイト)		人件費(アルバイト)	
パート研究補助員(1名)	1500	パート研究補助員(1名)	1800
(@1,798 円 X 835 時間)		(@1,798 円 X 1000 時間)	
合計	3750	合計	3750